1．科目名（単位数）	教育人間学特論　（2 単位）	3．科目番号	EDMP5232
2．授業担当教員	【池袋】高橋　勝　【名古屋】石﨑　達也		
4．授業形態	演習	5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし		
7．講義概要	主にドイツ及び日本の教育人間学の方法を用いて、子ども・若者が育つ「場所」としての「自己形成空間」の様態や特徴を考察する。とくにドイツの教育人間学は、現象学及び生の哲学（精神科学）を理論的基盤として構築されているので、この現象学と生の哲学が、人間という生（life , Leben. vie）をどのように見ているのかを詳細に説明する。その際に、生活世界（Lebenswelt)、場所、応答、関係生成等のキーワードをわかりやすく提示する。そしてドイツの教育人間学の強い影響下で構築されてきた日本の教育人間学の諸特徴を説明する。以上述べてきた教育人間学の方法を用いて、現代の子ども・若者の育ちと「生活世界」の成り立ちを受講生に理解させ、これからの子ども・若者の教育と支援の方法を探究していく作業が、本講義の概要である。		
8．学習目標	まず、教育人間学という学問が、ドイツにおいてどのような社会的背景から誕生したのかを説明する。それは、実証的社会科学とマルクス主義が鋭く対立した東西冷戦時代に、科学と進歩を自明の前提としたこれらの科学主義に対して、生命、生活、生（life, Leben, vie）を重視する立場から人間をとらえ直す現象学運動と生の哲学の潮流を引き継ぐかたちで形成されていることを、1970年代に活躍した0.F.ボルノウの教育人間学に関する文献を購読しながら説明する。そこでは、子どもが生きられる場所、出会い、危機的経験、老いと若返り、死と再生、生の気分等、現代の教育人間学が引き継ぐべき豊かな人間的生の地平が記述されていることを受講生に理解させ、生の諸概念を用いて受講生が人間を記述できるように指導する。しかし、東西冷戦が終結する1990年代になると、教育人間学は、構造主義とポスト構造主義の影響を受けて、文化の多様性と共生、他者との応答、多元的アイデンティティ形成等の人間形成論の基礎を担うものになることを、文献や資料購読を通して受講生に理解させる。以上の教育人間学の手法を用いて、子ども、若者、成人の学びと生の変容を記述できるようになることが、本講義の学習目標である。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	授業内容について、800字程度の質問やコメントを書いて提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】（池袋）高橋勝『経験のメタモルフォーゼ――〈自己変成〉の教育人間学』勁草書房、2007 （名古屋）高橋勝『経験のメタモルフォーゼ――〈自己変成〉の教育人間学』勁草書房、2007 【参考書】 西平直『教育人間学のために』東京大学出版会、2005 高橋勝『応答する〈生〉のために――〈力の開発〉から〈生きる歓び〉へ』東信堂、2019 高橋勝編著『子ども・若者の自己形成空間――教育人間学の視線から』東信堂、2014 Chr.ヴルフ（高橋勝監訳）『教育人間学入門』玉川大学出版部、2001 臨床教育人間学会編『リフレクション――臨床教育人間学、第２巻』東信堂、2007 遠藤野ゆり・大塚類『さらに、あたりまえを疑え――臨床教育学２』新曜社、2020		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準　出席率 20%、小課題レポート、最終レポートを総合的に判断する。 ○評定の方法　　出席率の他、小課題レポート、最終レポートの内容で評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	人間という存在は、さまざまな側面を持ち、矛盾に満ちた複雑な存在でもあるので、その人間を単純化せずに、複雑なままに理解するとはどのようなことかを、一緒に考えていきましょう。		
13. オフィスアワー	授業中に伝える。		

14. 学習の展開及び内容【テーマ，学習の目標，学習の内容，キーワード，学習の課題，学習する上でのポイント等】

1．テーマ	教育人間学とは何か

【学習の目標】　現象学と解釈学の地平から、人間を理解する方法を学習する。
【学習の内容】　理性、自立といった、近代教育学が自明とする人間理解を一旦カッコに入れて、現象学と解釈学の地平から、人間を改めて深く理解する方法を学習する。
【キーワード】　教育人間学、生世界、生の地平、世界内存在、共同主観性
【学習の課題】　教育人間学に独自の人間（子ども・若者・大人）へのアプローチのしかたを学習する。
【参考文献】　遠藤野ゆり・大塚類『あたりまえを疑え！――臨床教育学入門』新曜社、2014
【学習する上での留意点】現象学と解釈学の地平から、人間を理解する方法を詳細に説明する。

2．テーマ	プラトンの洞窟の比喩

【学習の目標】プラトンの「洞窟の比喩」は、人間が「学ぶこと」の意味を問いはじめた教育史上画期的な出来事であったことを学習する。
【学習の内容】プラトンの『国家』第 7 巻で語られている「洞窟の比喩」は、人が「学ぶこと」の本質を問うていることを学習する。
【キーワード】プラトン、『国家』、「洞窟の比喩」、イデア、鎖でつながれた囚人、影絵
【学習の課題】「洞窟の比喩」で、プラトンは何を言いたかったのかを、深く検討する。
【参考文献】　プラトン（藤沢令夫訳）『国家』（上・下）岩波文庫、2009
【学習する上での留意点】古代ギリシア思想が、現代の教育人間学の問いと深く重なり合うことを体感する。

３．テ ー マ	理性の哲学から存在論へ

【学習の目標】 ドイツ観念論から基礎的存在論への人間学上の大転換を学習する。
【学習の内容】 I.カント、Fr.ヘルバルト等を頂点とする観念論哲学から、M.ハイデガーの基礎的存在論への人間学上の大転換を学習する。
【キーワード】 カント、Fr.ヘルバルト、M.ハイデガー、基礎的存在論
【学習の課題】 人間そのものを、「規範」から見るのではなく、「存在」から見るという思考の大転換を学習する。
【参考文献】 M.ハイデガー（原佑訳）『存在と時間』中央公論社、1979
【学習する上での留意点】人間理解を、「規範のまなざし」から、「存在理解のまなざし」へと転換できるように説明する。

４．テ ー マ	世界内存在としての人間

【学習の目標】 人間を理性的存在と見なす前に、世界内存在として理解する方法を学ぶ。
【学習の内容】 世界内存在としての人間の実相を詳しく学習する。
【キーワード】 世界内存在、現存在、存在と時間、死の問題
【学習の課題】 世界内存在、現存在、存在と時間、死の問題等の概念が理解できるようにする。
【参考文献】 M.ハイデガー（原佑訳）『存在と時間』中央公論社、1979
【学習する上での留意点】難解な哲学用語を、わかりやすく具体的に解説する。

５．テ ー マ	共同主観的存在としての人間

【学習の目標】 現象学の方法を用いて、共同主観的に存在する人間のありようを深く学習する。
【学習の内容】 共同主観的に存在する人間のありようを、現象学の祖、E.フッサールの著作を通して学習する。
【キーワード】 現象学、共同主観性、世界の共同主観的構築、共同存在
【学習の課題】 現象学、共同主観性、世界の共同主観的構築、共同存在等の概念を学習する。
【参考文献】 E.フッサール（浜渦辰二・山口一郎訳）『間主観性の現象学――その方法』ちくま学芸文庫、2012
【学習する上での留意点】難解な哲学用語が混じるが、具体例を沢山用いれば、わかりやすい。

６．テ ー マ	生世界（Lebenswelt）を生きる

【学習の目標】 「生」(life.Leben,vie) という語のもつ幅広く多様な意味を学習する。
【学習の内容】 教育人間学においては、「生」(life.Leben,vie) という語がキーワードになることを学習する。
【キーワード】 「生」(life.Leben,vie)、生世界（Lebenswelt)、生きられる世界
【学習の課題】 「生世界」という概念をとおして、子ども・若者・大人の世界を理解していく方法を学ぶ。
【参考文献】 E.フッサール（浜渦辰二・山口一郎訳）『間主観性の現象学Ⅱ――その展開』ちくま学芸文庫、2013
【学習する上での留意点】難解な哲学用語を、わかりやすく解説する。

７．テ ー マ	共同主観性が生み出す生世界

【学習の目標】 他者との応答で編み上げられる共同主観性の生世界が理解できるようになる。
【学習の内容】 他者との応答で編み上げられる共同主観性の生世界を詳しく学ぶ。
【キーワード】 他者、応答、共同主観性、生世界
【学習の課題】 他者との応答で編み上げられる共同主観性の生世界を詳しく学ぶ。
【参考文献】 E.フッサール（浜渦辰二・山口一郎訳）『間主観性の現象学Ⅲ――その行方』ちくま学芸文庫、2015
【学習する上での留意点】難解な哲学用語を、ていねいに、わかりやすく解説する。

８．テ ー マ	物語を紡ぐ存在

【学習の目標】 無意識に紡がれる「物語」の世界の成り立ちを考察する。
【学習の内容】 一元性を志向するアイデンティティという語に代えて、広がりと遍歴を示す「物語」が注目されてきた理由を考える。
【キーワード】 アイデンティティ、物語、経験、遍歴、時間
【学習の課題】 物語を紡ぐ人間という視点から、子ども、若者、大人の生世界が理解できることを学ぶ。
【参考文献】 野家啓一『物語の哲学』岩波現代文庫、2009
【学習する上での留意点】 「アイデンティティ」と「物語」という用語の違いがわかるように指導する。

９．テ ー マ	他者との出会い

【学習の目標】 自己は単独では成りたたず、他者との応答の過程で、自己という生が編み直されていくプロセスを学習する。
【学習の内容】 自己という生を防御したり、突き崩したりする「他者」という存在の多様な現れを学習する。
【キーワード】 他者、出会い、危機、同化、排除、自己崩壊
【学習の課題】 他者、出会い、危機、同化、排除、自己崩壊等の概念を使って、自己と他者の関係を考え直してみる。
【参考文献】 やまだようこ『人生を物語る――生成のライフストーリー』ミネルヴァ書房、2010
【学習する上での留意点】人の自立を崩したり、再生させたりする厄介な他者という問題を理解できるようにする。

１０．テ ー マ	子どもの生世界

【学習の目標】 現象学の方法で、子どもの生世界を解読する方法を学ぶ。
【学習の内容】 子どもの生世界の成り立ちを、現象学的に解読する。
【キーワード】 子どもの生世界、自己、他者、関係、生成
【学習の課題】 子どもの生世界を解読する方法を理解する。
【参考文献】 浜田寿美男『私と他者と語りの世界――精神の生態学へ向けて』ミネルヴァ書房、2009
【学習する上での留意点】 参加観察や記述物の解読方法を学ぶ。

１１．テ ー マ	若者の居場所

【学習の目標】 若者の居場所が、いまなぜ必要なのか、またどのような居場所が求められているのかを学習する。
【学習の内容】 若者が自己を肯定し、安心して居られる居場所の問題を、不登校や引きこもりの事例から考える。
【キーワード】 若者、居場所、不登校、引きこもり

【学習の課題】　不登校や引きこもりの事例を調べ、教育人間学的な解読を進める。
【参考文献】　高橋勝編著『子ども・若者の自己形成空間――教育人間学の視線から』東信堂、2014
【学習する上での留意点】若者の言葉や記録をどのように読み取るかを指導する。

１２．テ ー マ	若者の不登校・引きこもり

【学習の目標】 若者の不登校、退学、引きこもりの原因を教育人間学的に考察する。
【学習の内容】 多くの若者がなぜ不登校、退学、引きこもりになるのか、その理由を検討する。
【キーワード】 若者の不登校、中途退学、引きこもり
【学習の課題】 当事者の視線に寄り添いながら、学校や社会から排除されがちな若者の生世界を解読する。
【参考文献】　高塚雄介『ひきこもる心理、とじこもる理由』学陽書房、2002
斎藤環『承認をめぐる病』ちくま学芸文庫、2016
【学習する上での留意点】当事者の視線に寄り添いながら考えるように指導する。

１３．テ ー マ	経験しつつ変容する生世界

【学習の目標】 一つの自己アイデンティティに縛られず、さまざまな経験に身を委ねるという生き方の大切さを理解する。
【学習の内容】 若者を一つの自己アイデンティティに縛るのではなく、さまざまな経験に身を委ねるという生き方の可能性を学ぶ。
【キーワード】 アイデンティティ、拡散するアイデンティティ、流動する生世界、自己変容
【学習の課題】 自己統合ではなく分散、拡散の受容、固定ではなく流動に身を委ねるという生き方もあることを学ぶ。
【参考文献】　奥地圭子『不登校という生き方――教育の多様化と子どもの権利』NHK ブックス、2005
【学習する上での留意点】さまざまな経験に身を委ねるという生き方を、受講生が理解 f できるように説明する。

１４．テ ー マ	経験のメタモルフォーゼ

【学習の目標】 過剰な自己執着、一元的自己の幻想から解放された「流動する生」のイメージを自分なりに作る。
【学習の内容】 人は、さまざまな経験をかいくぐることによって、生世界は広がりと深まりをみせ、小さな自己執着から解放されることを学習する。
【キーワード】 経験、メタモルフォーゼ、自由自在、自己執着からの解放
【学習の課題】 自己執着から解放される生のイメージを自分なりに考えてみる。
【参考文献】　高橋勝『経験のメタモルフォーゼ――〈自己変成〉の教育人間学』勁草書房、2007
【学習する上での留意点】生の多様な自己生成のかたちをイメージできるか。

１５．テ ー マ	教育人間学が開示した生の世界

【学習の目標】 教育人間学の方法で、子ども、若者、大人、高齢者を見ると、何が見えてくるのかを再考する。
【学習の内容】 現代教育において、教育人間学という学問の重要な役割を明らかにする。
【キーワード】 教育人間学、リフレクション、臨床教育学
【学習の課題】 教育人間学という学問の方法で、子ども、若者、大人、高齢者を見ると、何が見えてくるのかを深く考える。
【参考文献】　臨床教育人間学会編『リフレクション――臨床教育人間学、第 2 巻』東信堂、2007
【学習する上での留意点】受講生に、教育人間学の奥深さが体感できる学びになったかを考えてもらう。